

# ハワイの声：メディアと先住民語の再活性化

古川敏明氏  
(早稲田大学)

## 1. はじめに：宇宙からのハワイ語関連ニュース

エスノポエティクスは、ある集団が何かを巧みに達成する手段である。本発表ではこうした定義に基づき、ハワイ先住民の言語がマスメディア、特にラジオで使われる場面を取り上げ、多言語・多民族社会であるハワイの文脈から集団の中で共有される詩学について考えていきたい。まず、最初にハワイの歴史のおよび文化的背景について説明し、後でラジオと詩学について論じるための土台を提示する。ハワイと聞いてすぐに以下のような地図を思い浮かべることができる人は、案外少ないのかもしれない。

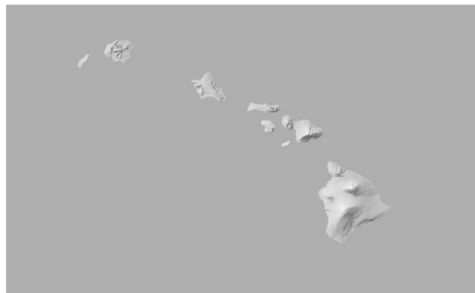


図 1. ハワイ諸島。(Maps of Oahu GIS Homepage を元に作成)

観光地として知られるアメリカのハワイ州だが、日本の成田空港から出発した多くの飛行機は、オアフ島（左から 3 番目）のホノルル国際空港（2017 年に正式名称がダニエル・K・イノウエ国際空港に変更）に到着する。ハワイ州の人口約 140 万人のうち、約 8 割がこの島に集中している。場所によっては人口過密な状態であるこの島だが、大きさは日本の 47 都道府県でいうと大体、大阪府くらいである。

地図の中にはハワイ島（右端）という島もある。2019 年にはある世界的発見

の舞台になった。2019年春、ブラックホールの撮影に成功したという国際的なニュースが報じられた。HPR(Hawai'i Public Radio)というハワイ公共ラジオネットワークによる報道では、ヘッドラインに“Introducing Pōwehi, The World-Famous Black Hole”と書いてある(Hiraishi, 2019, April 10)。実は、今回撮影されたM78星雲にあったブラックホールには、既に名前がついていたのだが、日本のニュースではこの点は特に報道されていなかった。ハワイのラジオ局は、今回撮影されたブラックホールには「Pōwehi(ポーヴェヒ)」という名前がついていたと報じている。ポリネシア系の言語であるハワイ語では「Po(ポー)」は「闇」、「wehi(ヴェヒ)」は「装飾」を意味する。ハワイ語では修飾語は後ろにつくので、「飾られたポー(闇)」という意味の名前だということになる。この名づけ親が、ニュース記事の写真の真ん中にいる人物で、ラリー・キムラという名前である。「キムラ」という家族名からわかるように、日系の民族的背景を持つとともに、先住民系でもあり、マルチレイシャル(multiracial)な人物である。ラリー・キムラさんは長年、ハワイ語を復活させるための運動の中心にいて、1970年以降、本発表で取り上げるハワイ語ラジオ番組のパーソナリティーを務めていた。現在ではハワイ大学ヒロ校(University of Hawai'i at Hilo)の教員である。

ブラックホールの名前にも用いられているハワイ語だが、主な使用地域はハワイ州で、約2万人の話者がいると推定される。ハワイ語の表記にはアルファベットを用い、長母音記号や声門閉鎖音を表す「オキナ('okina)」という記号がある。では何かハワイ語の単語を聞いたことがあるだろうか。「アロハ(Aloha)」は誰でも聞いたことがある有名な単語だろう。他にも「ありがとう」を意味する「マハロ(Mahalo)」、「調子はどうですか?」の「ペヘア・オエ (Pehea 'oe?)」、「いつもと変わらないよ」という返事として「オ・イア・マウ・ノー ('O ia mau nō)」、「じゃあね」という別れ際の挨拶「ア・フイ・ハウ (A hui hou!)」などの表現がある。これらはハワイ語の表現だが、ハワイでは英語を話していても、これらが英語の発話のなかに混ざり込んできたりすることがよくある。

## 2. メレ：ハワイ語の詩

本シンポジウムの主題は「詩」であるが、ハワイ先住民の文化における詩を意味する単語は「メレ (mele)」である。このメレをハンドモーションやステップ

といった身体動作で表現をするのが伝統舞踊の「フラ(hula)」であり、言葉で詠唱して表現するのが「オリ(oli)」と呼ばれる。フラで踊られるメレの一つとして、「ケ・アオ・ナニ(Ke Ao Nani)」という曲を取り上げたい (Huapala)。

I luna lā i luna

Nā manu o ka lewa

I lalo lā i lalo

Nā pua o ka honua

I uka lā i uka

Nā ulu lā'au

I kai lā i kai

Nā i'a o ka moana

Ha'ina mai ka puana

A he nani ke ao nei

He inoa no nā kamali'i

「ケ・アオ・ナニ(Ke Ao Nani)」は「美しい世界」という意味の詩である。作者はメアリー・カヴェナ・プクイ(Mary Kawena Pūku'i)という、ハワイ語の文法書や辞書などを編纂した先住民言語文化の大家として知られている。1番は“I luna lā i luna, Nā manu o ka lewa”でこれを2回繰り返す。“luna”は「上」, “manu”は「鳥」, “lewa”は「空」で、全体は「上に上に、空にいる鳥たち」という意味になる。2番は“I lalo lā i lalo, Nā pua o ka honua”で, “lalo”は「下」, “pua”は「花」, “honua”は「大地」で、全体は「下に下に、大地に咲く花」という意味である。

このように3番, 4番と続いていくが, 3・4番を飛ばして5番にいくと“Ha'ina

mai ka puana, A he nani ke ao nei”という歌詞になっている。フラで踊られるハワイ語の詩には決まり文句のパターン化(型)が見られ、ほとんどの曲の最後は、この“Ha‘ina mai ka puana (物語が語られる)”で始まり、曲のテーマが繰り返される。1番の歌詞が繰り返されることもあるが、ここでは曲名(美しい世界)がパラフレーズされた“A he nani ke ao nei (この世界は美しい)”と続いている。5番の後には“He inoa no nā kamali‘i(子どもたちに捧げる名前の詩)”というフレーズがあるが、これも定式化された表現で、“nā kamali‘i (子供たち)”を別の語句にすることで、神や王族に捧げる詩であることが宣言される。

以上の詩を見て、何か反復による構造らしきものを同定できるだろうか。詩の最後は、“Ha‘ina mai ka puana”という定型表現があるとか、最後に誰々に捧げるというフレーズがあるとか、これも一種の型といえる。これらに加えて、同一の、あるいは類似の語句・要素を反復することによって、類似性を強調している箇所がある。例えば、1番は「上」、2番は「下」、3番は「uka(山)」で、4番は「kai(海)」を含む語句が繰り返されている。場所を表す前置詞“i(イ)”とともに“i luna, ilalo, i uka, i kai”という反復が確認できる。詩の構造における別の観点として、対比にも着目したい。1番が“luna(上)”, 2番が“lalo(下)”と歌っている。一方、3番の“uka (山)”は高い場所、4番の“kai (海)”は低い場所と解釈できる。そうすると、1番から4番には、「上」、「下」、「上」、「下」という反復が組み込まれていることがわかる。エスノポエティクスが着目する構造は、ハワイ先住民の言語文化においても確認できる。

本日行われたいくつかの講義の中で、詩的機能と構造、そして、構造化についての言及があった。詩的機能とは、同一ないし類似した要素が反復して生起することによるメッセージの前景化である(小山, 2018)。換言すれば、要素とは、言語形式であり、意味であり、音であり、リズムであり、これらを反復することによって、詩的な連関、つまり、詩的な構造を生み出すということである(武黒, 2018)。その構造を生み出すことが詩的構造化である。同一・類似したユニットが、単に繰り返されるのではなく、隣接して生起することで、ユニットが一つのまとまりを構成する(小山, 2018)という点が重要である。

以下では、ハワイ語における詩的連関とその構造化について見るために、ハワイ語のラジオ番組「カ・レオ・ハワイ」の言語コミュニケーションにおいて、

(1)反復あるいは隣接して生起する要素にはどのようなものがあるか、(2)そうした要素が反復することで、どのような詩的連関・構造が生み出されているのか、(3)そのような構造が生み出されることで、ラジオ番組のコミュニケーションにおいて、どのようなメッセージが前景化されているのか、という3つの問いを設定する。

### 3. ハワイの歴史的背景とラジオ番組誕生

ラジオ番組におけるやりとりを理解しやすくするために、もう少しハワイの歴史的な背景を振り返っておこう。まず、1778年にイギリスからクック船長の一団がハワイにやって来た。これがハワイ先住民社会と西洋との最初の接点となった。1810年にはカメハメハがハワイ諸島を統一してハワイ王国を建国し、その後83年間、ハワイには独自の王国が存在した。おそらく多くの人々が「カメハメハ」という名前を耳にしたことがあるだろう。初代の王以外にもカメハメハという名前を冠する王が5世までいる。6代目はルナリロ、7代目はカラーカウア、最後の8代目は女王でリリウオカラニである。7代目のカラーカウアは1881年（明治14年）に日本を訪れ、明治天皇に謁見するなど日本との繋がりがあつたことで知られている。ちなみに、当時の新聞記事によると、カラーカウアが横浜港にやって来たときに、政府の要人が二人わざわざ汽車に乗って迎えに行ったのだが、そのうちの一人が大隈重信だった。大隈は翌年の1882年に早稲田大学の前身である東京専門学校を設立している。現在私は早稲田大学に所属しているということもあり、創立者である大隈とハワイとの接点を知れたのは個人的に嬉しくなる発見だった。ハワイは早稲田に限らず、日本と昔から何かと接点がある「国」である。

しかし、独立国家だったハワイ王国は存亡の危機に直面する。1893年にアメリカの実業家たちとアメリカの海軍が結託してクーデターを起こし、王国を転覆させた。その後、ハワイ語は学校の教育言語として禁じられるなどして衰退していく。王国がハワイ共和国となった後、1898年にはアメリカに併合されて準州となる。1959年にはアメリカの50番目の州になるというように統治形態が変遷していく中で、独自の国家を失ったハワイ先住民は社会的にも苦しい立場に置かれた。しかし、1960年代以降、アメリカ本土にける公民権運動の影響

を受け、ハワイでも先住民の言語と文化を復興させようという社会的な機運が高まっていく。

ハワイアン・ルネッサンスと呼ばれる言語と文化の復興運動の中で、本日の話題であるラジオ番組「カ・レオ・ハワイ」が開始された。「レオ(leo)」は「声」という意味で、「ハワイの声」という番組名である。放送期間は2つに大別され、1972年から1988年まで放送されたのが第1期で、(本日の冒頭で言及したブックホールの命名者である)ラリー・キムラさんがパーソナリティを務めた。カ・レオ・ハワイの目的は、当時、高齢化が進み、年配の母語話者がかなり減ってきていたため、その方たちをゲストに招いて、いろいろな話を聞いて、言語を記録し、かつ文化的な知識も保存しようということだった。

第2期は1991年から2000年まで放送された。第1期と異なり複数のパーソナリティーが同時に出演したが、主たるパーソナリティーはハワイ大学の教員だったプアケア・ノーゲルマイヤーさんが務めた。また、この時期は年配者の母語話者が極めて少なくなっていく時期でもあり、番組のホストもゲストもハワイ語を学んだ第2言語話者が中心となった。

#### 4. ラジオ番組カ・レオ・ハワイにおける言語コミュニケーション分析

ラジオ番組を取り巻く時代背景を説明したので、次は実際にラジオ番組の中で起きる言語コミュニケーションについて、特に、詩的なパターンを見ていこう。分析のための道具立てとして、「リポータッドスピーチ(reported speech)」を用いる。いわゆる引用のことであり、話し言葉における「誰々が何々と言っていたよ」と報告する活動は、私たちが日常のコミュニケーションのなかでよくやる活動といえる。先行研究によれば、このような引用は、一種の再文脈化であり、誰かが別の文脈で言ったことを、別の文脈に置き換えて生み出す行為と定義されている(Bauman & Briggs, 1990)。引用が対話の形式をとると、コンストラクテッド・ダイアログ(constructed dialogue, Tannen, 1989)となり、こうした要素の対となる構造もラジオにおける言語コミュニケーションに観察される。類似の現象を、他の研究者は「アクティブ・ボイシング(active voicing)」と呼ぶ(Wooffitt, 1992)。最近では、「リプレゼンテッド・トーク・アンド・ソート(represented talk and thought)」というように、人の言ったことだけではなく、

心の中の声みたいなものも、一種の引用として概念化（略して「RT」）することが提唱されている（Prior, 2015）。

第1期、第2期の「ハワイの声」というラジオ番組は、それぞれ約400回ずつ放送されたが、本日は、第2期の初期1991年の放送回のファイルを見てみたい。このデータは、ハワイ大学のウェブサイト eVols で一般公開されていて、誰でもダウンロードできる。今回の放送回の長さは約60分で、主な参加者はホスト役の「PN」「TK」「HA」の3人（ハワイ語の第二言語話者）とゲストの年配者である「AB」（ハワイ語の母語話者）の合計4人である。

放送が始まってしばらくすると、ゲストのABが主たるホストのPNに話を振る。PNは、この日の番組開始前に、ABを車で迎えに行ったときの話をする。その物語のなかに登場する4人の人物がいて、車で迎えに行ったホストのPN、迎えに来てもらった年配のゲストのAB、さらにABの隣人①、そしてABの別の隣人②（後に同居人であることが明らかになる）という以上4人である。物語が語られる間、スタジオにいるPN以外のホストTKとHAはほとんど発話せず、主に笑いを通してスタジオ内の会話に参加している。

会話の抜粋の形式としては、左端の欄に行番号、中央の欄に言葉を発した人の略語、右の広い欄に発話内容や文脈に関する注が表示されている。以上に加えて、ハワイ語で発話されている箇所には英語訳をつけている。例えば、1行目はゲストのABによる発話（主にハワイ語）、その下に逐語訳、さらにその下の3行目に、発話全体の英訳を示す。

### 抜粋 1

- 001 AB well, (.3) ho- (.) ho'omaopopo aku nei 'oe  
understand Dir you  
'Well, do you remember
- 002 AB kēlā luahine a'u (me aku) noho. (.)  
that old lady my with Dir live  
that old lady I'm living with?
- 003 AB ko'u: .h (.) ko'u: roomma[(te).]  
my my  
My roommate.'
- 004 PN [ɿ'eɪā] (.) 'ae ['ae].  
that's it yes yes  
'Of course, yes, yes.'

最初にゲストの AB が「私が一緒に住んでいるあのルアヒネ（年配の女性）を覚えているか?」と述べる。直後に「私の同居人のことだけど」と言い換えて、ある人物について語るように、（誰かを）促している。すると、（複数いるホストの中で）PN が「もちろん、はい、はい」と応答している。次に 5 行目以降を見ていく。

## 抜粋 2

- 005 AB [well],
- 006 (0.8)
- 007 AB †'o †ia kanahiku kūmā lua maka†hi‡ki, .h  
*Top she seventy and two year*  
*'She is 72 years old,*
- 008 AB but ma ko'u no'ono'o 'ana. (.)  
*at my consider NZR*  
*but I don't think*
- 009 AB 'a'ole 'o ia 'ike ka 'ōlelo Hawai'i.  
*not Top she see the language Hawaiian*  
*she understands the Hawaiian language.'*
- 010 PN 'a'ole.  
*no*
- 011 (.4)
- 012 PN 'a'ole maopopo iā ia, (.) 'o ia kāna 'ōlelo i†a'u  
*not understood to her Top it her language to me*  
*'She doesn't understand (Haw lg). That's what she said to me.'*
- 013 (.3)
- 014 AB 'a:e:  
*yes*
- 015 (.)
- 016 PN h

7 行目で、まだゲストの AB が話しているが、同居人の年齢を特定している。ここで重要なのは、この放送回の 1991 年の時点で 72 歳ということは、ある種の期待感、つまり、年配者であるから、先住民語であるハワイ語が話せる可能性



が高いという期待がオーディエンスのほうにまず生まれるという点である。だからこそ、直後の 8 行目で AB は、“But”「でも」と逆説の接続詞で発話を継続し、「でも、年齢は高いけれども先住民語は使えない」と、オーディエンスのなかに湧き上がる期待感を即座に否定している。12 行目で、ホストの PN も「そうそう、私も彼女からそう聞いた」と述べ、年配者のハワイ語能力に関する AB の見解を支持している。ここまではまだ PN による物語の語り出しは始まっていないが、次の抜粋の 18 行目あたりから、いよいよ PN による語り（AB を迎えに行った話）が始まる。

### 抜粋 3

- 017 (.3)
- 018 PN ua ki'i wau iā (.) 'Anakal(h)a k(h)ēia \$ahiahi\$  
*Perf fetch I Obj uncle this evening*  
*'I went to pick up Uncle this evening*
- 019 PN a ua poina ia'u ka helu o kona wahi. .hh  
*and Perf forgot to me the number of his place*  
*and I forgot his street number.*
- 020 PN >so< .h (.3) 'imi hele au i 'ō i 'ane'i ma kēlā ku'ina  
*alanui.*  
*seek keep I in there in here at that junction*  
*street*
- 021 PN *So I kept looking here and there at that intersection.*
- ua 'ike wau, aia kona hale ma kahi o: (.)  
*Perf see I there his house at place of*
- 022 PN *I knew his house was at*
- <Alani (.) a me Hāna>. .h (ena'e) ((eia na'e)) 'ano  
*Alani and Hāna here however kind of*
- 023 PN *Alani and Hāna. There are, however, kind of*
- nui nā hale li'ili'i ma kēlā [ku'ina] alanui. .hh  
*many Det.Pl house small at that junction street*
- 024 AB *lots of small houses at that intersection.'*
- [yeah ]

18 行目で「今日の晩にアंकル(ハワイ語で'Anakala)を迎えに行った」と述べることによって、ここから物語モードに突入したことがわかる。スタジオにいる他の参加者たち(ホストたちやスタッフ)に対して、PN が主たる語り手として、参加の枠組みが切り替わったことが示されている。つまり、PN がゲスト

の AB と 1 対 1 で話している状態から、PN を主たる語り手とする物語に活動が切り替わったのである。こうして迎えに行ったときの話が始まるが、19 行目で、「迎えに行ったが、住所を忘れた」と述べている。そして、20 行目で、あたりを見て回ったと述べる一方、21 行目以降で、目的地である AB の家がアラニ通りとハーマ通りの交差点にあるということは把握していたと述べている。しかし、23 行目にあるように、そのあたりには小さい家が多いので判別し難いと語っている。ゲストの AB は、“yeah”と最小の応答をすることで、現在の語り手である PN に語り続けるように促している。

#### 抜粋 4

- 025 PN so .h 'imi mua wau, a laila ua n: nīnau wau  
*seek first I then Perf ask I*  
*'so I looked first, and then I asked*
- 026 PN kahi kanaka me kāna wahine (.) kū ana:, (.)  
*one person with his wife stand Pcl*  
*a person with his wife standing*
- 027 PN ku- kū ana ma ka pā hale. .h  
*stand Pcl at the yard house*  
*in the yard,*
- 028 PN "ua ↑'ike anei ↓'o:e i kahi kanaka  
*Perf see here you Obj one person*  
*"Have you seen a person?"*
- 029 PN 'o: Analū Bob. >kona inoa<."  
*Top Analū Bob his name*  
*His name is Analū Bob."*
- 030 PN 'a'ole loa lāua i 'ike.  
*not much they.2 Perf see*  
*They didn't know.*

25 行目では、PN が辺りを見渡し、26 行目にあるとおり、AB の隣人を見つけて話しかけている。隣人は妻とおぼしき人と一緒に庭に立っていたと述べられている。28 行目で引用が用いられており、迎えに来ている PN が AB の隣人に対して、「ある人を知っているか？ 名前はアナルー・ボブと言うんだけど」と聞いている。このやりとりで面白いのは、実際の会話は英語でおこなわれたと考えられるわけだが、ハワイ語のラジオ番組であるということもあって、スタジオ内では物語内のやりとりがハワイ語で再構築されている点である。28 行目

で引用が用いられたのと対照的に、30行目において、隣人が質問に対してどのような返事をしたのかということは、引用を用いずに「2人は(ゲストのABを)知らなかった」とだけ報告している。以下の抜粋では、隣人が行き先を示したことが述べられている。

#### 抜粋 5

- 031 PN °so° kuhi aku lāua ia'u,  
point Dir they.2 to me  
So they gave me directions,
- 032 PN "hele i kēlā hale: i uka a'e."  
go to that house at mountain Dir  
"Go to that house on the mountain side."
- 033 PN .hH kā'alo wau kahi a kalaiwa. .h  
pass by I place and drive  
I passed by a place and kept driving.
- 034 PN ua 'ike wau kahi luahine noho ana i loko.  
Perf see I one old lady sit Pcl in inside  
I saw one old lady sitting inside.
- 035 PN (.) (°so°) (.) kalaiwa au i loko o laila, .hh  
drive I in inside of there  
So I drove in there,

31行目になって、「隣人たちが行き先を示してくれた」と前置きを述べてから、32行目で、その隣人がPNに対して、新たな指示を与えているところが引用を用いて再構築されている。「山側にあるあの家に行け」という指示を直接引用で再構築しているのである。33行目で、「ある場所を通り過ぎ、車を運転し続けた」と状況を描写し、34行目で今度はまた別の隣人（後でABの同居人と判明する隣人②）に遭遇する。34行目、「家の中に座っている年配の女性に気が付いた」と述べ、そこにまで車を進めていったと語りを継続している。この後、隣人②が登場し、直接引用の繰り返しを含むやりとりが再現される。

#### 抜粋 6

- 036 PN nīnau wale aku wau ((/wau/)) iā ia  
ask only Dir I to her  
I just asked her
- 037 PN "ua †kama'āina anei 'oe †iā A(h)nalū Bo(h)b?" \$hh\$ .h  
Perf familiar Pcl you to Analū Bob  
"Are you familiar with Analū Bob?"

038 PN "\$'o ia ka'u e 'imi nei.\$" .h (.)  
*Top he my to seek Pcl*  
*"I'm looking for him."*

039 PN 'ōlelo mai 'o ia. .h (.) <'o (.) †Andrew a↓nei.>  
*speak Dir Top she Top Andrew Pcl*  
*She said, "Andrew?"'*

040 ? hhh

041 PN and (.) pane mai 'o ia  
*answer Dir Top she*  
*'And she replied,*

042 PN (a ua) 'ōlelo 'o ia ma ka 'ōlelo <haole>. .h  
*and Pef speak Top she at the language foreign*  
*and she spoke in English.'*

043 PN uh:m (.) ">so what.< (.4) <you looking for †An↓drew?>""=

044 PN =hh[hh

045 TK [hhhh

36行目で、PNが「その年配の女性に尋ねた」と前置きしてから、引用を用いて「アナルー・ボブという人を知っているか?」、38行目で「その彼のことを探しているんだけど」と聞いている。すると、39行目で女性の応答が描写され、「彼女(隣人②)は『アンドリュー(のこと)?』と言った」と聞き返した内容を直接引用で示している。実際の発話全体はハワイ語で、名前の部分だけ“Andrew?”と言っている。ゲストの名前「アナルー」は英語の“Andrew”から来ていて、ハワイ語風に発音されたのが「アナルー」である。(Andrewを日本語風の発音では「アンドリュー」ということを想起すればわかりやすいだろう。)つまり、上記の再現されたやりとりでは、英語名としてのAndrewとハワイ語風発音Analūとの間の差異が重要なリソースとして用いられ、PNと隣人②とのミスコミュニケーションが再構築されているのである。ハワイ語ラジオ番組のホストであるPNとしては、このゲストの名前をアナルーとハワイ語風に言うことが当たり前である一方、同居人(隣人②)はABに対してAndrewを呼び名として用いることが当然という前提のズレが利用されている。

41-42行目では、PNは隣人②による発話の前置きを行い、隣人②が英語で発話したことを強調しているように見える。ミスコミュニケーションの原因が

Andrew と Analū の差異なので、隣人②が英語話者であることを再度明らかにしていると考えられる。PN は 43 行目で、隣人②による発話を“so what. you looking for Andrew?”と英語で引用して再構築している。43 行目の抜粋の記号化に反映してあるが、PN が再構築した隣人②の発話は、英語のように聞こえるかもしれないが、特に発話の最後の急激な上昇・下降イントネーション（↑An↓drew）を考慮すると、実は PN は隣人②を英語話者というより、むしろハワイの地元では「ピジン(Pidgin)」(言語的には「ハワイ・クレオール英語）」と呼ばれる言語の話者として提示しているという観察が可能だろう。(もちろん、先住民系を含むハワイの地元民によるやりとりを再現できるという意味において、PN は自らもピジン話者として提示している点も注意すべきである。) 以上の切り替えが、45 行目における、他のホストたちからの笑いの産出へとつながっている。以下の抜粋でも引き続き引用の使用が観察される。

#### 抜粋 7

- 046 PN a 'ōlelo mai 'o ia "‘a:e ‘ae ‘ae." .h  
and speak Dir Top she yes yes yes  
'And she said, "yes, yes, yes."
- 047 PN uh:m (.5) "aia 'o ia: <ke kakali nei iā 'o:e.>  
there Top he Pcl wait Pcl Obj you  
uh:m "He's there waiting for you
- 048 PN i kēlā 'ao'ao. °so° hele 'oe." .h  
in that side go you  
on that side. So go there."
- 049 PN (but) ua kama'ililio li'ili'i māua. (.3)  
Perf converse small we.2.exc  
(But) we chatted.
- 050 PN 'ōlelo 'o ia .h "°'a'ole maopopo° ia'u ka 'ōlelo Hawai'i,  
speak Top she not understood to me the language  
Hawaiian  
She said, "I don't understand the Hawaiian language,
- 051 PN akā <ua lohe wau kou leo ma ka lekiō.>"  
but Perf hear I your voice at the radio  
but I heard your voice on the radio."
- 052 PN h h[hh ]
- 053 TK [ah↑:]: hhh[hhh ]

46 行目の PN による「はい、はい、はい」は、遡及的に、37 行目の PN による質問（「アナルー・ボブという人を知っているか？」）に対する隣人②の応答として構築されていると解釈できる。AB を知っているのと肯定した後、47-48 行目でさらに引用を用いて AB がいる場所を伝え、そこに行くように言っている。

49 行目にあるように、物語の中では、PN がすぐに AB のいる場所に向かうのではなく、PN と隣人②がしばらくおしゃべりをしたことになっている。50 行目では、隣人②について、「彼女が言った」、「私はハワイ語は分からない」というように、自分のハワイ語能力の欠如について、直接引用で語っている。そして、51 行目で、「でも、私はあなたの声をラジオで聞いたことがある」と隣人②に言わせた後、PN は自ら笑い始め、それに続いて、53 行目でホストの一人である TK が、隣人②は未知の言語の音に対する優れた認識力を有する（隣人②はハワイ語は解さないが、初対面であるハワイ語番組のホストを務める PN の声を認識している）ことを理解したという反応が示されている。年配のハワイ先住民として先住民語の能力は欠如しているかもしれないが、少なくともハワイ語の音に対する直感力は保持していることが、この直接引用のなかで暗示されている。PN はなぜ隣人②がハワイ語がわからないのにラジオを聞いているかという説明を続ける。

## 抜粋 8

- 054 PN [ >no ka mea<] noho pū lāua i ka hale,  
because live together they.2 in the house  
'Because they live together in the house.'
- 055 PN (.h)
- 056 HA oh[::
- 057 PN [a ho'olohe mau 'o Analū i ka lekiō.=  
and listen always Top Analū to the radio  
'And Analū always listens to the radio.'
- 058 HA =ah:
- 059 TK ↑'o: i↓a:.=  
Top it  
'Is that so?'
- 060 PN =so nīnau kēlā wahine ia'u. (.)  
ask that woman to me  
'So that woman asked me,

061 PN    `'o ↑'oe kēlā keiki ma ka leki↓ō."  
           *Top you that child on the radio*  
           "Are you the host of that radio show?"'

PN はスタジオ内の参加者やリスナーに対して補足説明を行っており、隣人②は実は AB の同居人なので、AB が聞いているラジオ番組を耳にしているという事情がほのめかされている。60 行目では、隣人②の発話が引用として再構築されている（「あなたがあのラジオ番組のホストか?」）。この質問は、この語りのオチへの前振りになっていることが次の抜粋で確認できる。まず、ホストの一人 HA が笑っている 62 行目に着目しよう。

#### 抜粋 9

062 HA    hhh  
 063       (.)  
 064 PN    o: [o] (.) ua 'ae       aku: "'a:e,"  
           *Perf say yes Dir yes*  
           'o: o, I said, "yes."'  
 065 AB       [h]hhh  
 066       (.5)  
 067 PN    nīnau mai 'o ia. (.) "<he ↑haole ↓'oe?>"  
           *ask Dir Top she a foreign you*  
           'She asked, "Are you white?"'  
 068       (.)  
 069 TK    h:[hhh:]h  
 070 PN       [Hhh]  
 071 TK    .h[h ]  
 072 PN       ['ae] aku wau, "'eā?"  
           *say yes Dir I that's it*  
           'I confirmed, "that's right."'  
 073 HA    hh[h]  
 074 TK       [h][:h        ]  
 075 PN       [you know], (.h)  
 076 HA?   .h

「あなたがあのラジオ番組のホストか？」という質問を聞いて笑っている HA は、PN が再構築した質問の含意をすでに先取りして理解したという主張を行っていると考えられる。この場面における質問の含意と密接に結びついた前提は、(1)ハワイ語はハワイ先住民の言語であるとか、(2)ハワイ語に堪能なのはハワイ先住民であるとか、(3)さらにはハワイ語の番組のホストはハワイ先住民である、といったことを抑えた上で、やりとりの続きを見て行こう。

PN は肯定の応答をし、隣人②と PN との対話が一旦終結したところで、67 行目で隣人②からの追加の質問が再び直接引用で提示され、この質問自体が物語のオチになっている。「へ・ハオレ・オエ」は、「あなたは白人なのか？」という意味であり、この後に続く PN からの返答を予測できたことを主張しつつ、答えの明示性を示唆しているのが、69 行目における TK の笑いである。

「ハオレ (haole)」はハワイにおいて「外国人、特に白人」を指す、時に蔑称ともなる表現である。実は、ホストの PN は、ハワイ先住民系ではなく、アメリカ本土出身で、欧米系の民族的背景を持つ人物である。ハワイ語コミュニティでは周知の事実だが、(おそらく先住民系ではあるがハワイ語を巡る活動に携わってこなかった)隣人②は、この事実を知らなかったのが、PN と遭遇して驚いたというのがこの物語の終結部における重要な構成要素なのである。隣人②が驚くのは、「あなたは白人なのか？」と聞くことで、そのカテゴリと結びついている、当然、英語しか話せないというような規範的な結びつき・期待が、ここでは裏切られていることが明らかになるからである。72 行目の PN の応答は明らかであるが、その応答後に、73-74 行目で共同ホストの HA と TK が笑っている。PN が引用を駆使して構築した物語の聞き手として、両者とも語りの展開を先取りして理解を主張していた一方で、(まるで漫才の観客がボケの直後に笑うのではなく、ツッコミを聞いてから笑うかのよう)に改めて笑うべきところでも笑っていることが観察される。

最後は、PN が自分と隣人②が別れの挨拶をして、隣人②が「そこに行けばアナルーがいる」と伝え、両者のやりとりは終了する。そして 80 行目で、PN はゲストの AB に直接話しかけて語りの枠組みを切り替え、語りのモードを終結させている。



## 抜粋 10

- 077 PN °so° (.) ua hele mai 'o ia <honi mai,>  
*Perf go Dir Top she kiss Dir*  
*'So she came and kissed me,*
- 078 PN a (.) kuhi mai 'o ia ia'u "hele 'oe i 'ō,  
*and point Dir Top she to me go you to there*  
*and she gave directions to me, "Go there.*
- 079 PN a (.) aia 'o Analū." (.) hh .hh  
*and there Top Analū*  
*And Analū (is there)."*
- 080 PN so. <pēlā i lo'a ai 'o:e.> (.) hhh  
*like that Perf gotten Pcl you*  
*So that's how I got you.'*

以上、ハワイ語ラジオ番組における言語コミュニケーションにおいて、様々な引用の繰り返しが観察された。「私がこう言ったんだ」「彼女がこう言ったんだ」のような前置きの後に実際の発話が引用によって提示されていた。こうした引用を単独で用いたり、2つの引用をセットで用いることで対話風の引用が生み出されていた。また、単独の引用や対話風の引用は物語の中に組み込まれ、一連の語りの直後に笑いを産出するという連関が観察された。(ただ、聞き手がオチを先取りして理解したことを笑いを通じて主張するということも確認された。) 反応としての笑いの産出と関連して、今回のデータでは、語りの終結部(クライマックス、盛り上がり)のところで、単独の引用ではなく、対話風の引用が用いられていた。別の語り場面のデータも加えて検証しなければならないが、対話風の引用を使うことで、終結部がより効果的に構築できるのかもしれないし、特に第2言語話者にとっては卓越した語り手として振る舞うために有用な道具立てなのかもしれない。

## 5. 結び：エスノが意味するもの

こうした詩的連関は文脈的に、ハワイ語やピジンを巡る歴史的背景も踏まえて、ハワイで生まれ育った人たちがどのように話すかを再構築していたと言える。例えば、隣人と、あるいは初対面の人とでも親しく話すというイメージが補完される場面があった。また、そうしたやりとりにおいて、英語とは異なる「ピジン」が用いられるということも、物語のなかで再現されていた。番組ホストの

PNがハワイ語で物語を構築していたように、実際は英語であるいはピジンで行われたやりとりをハワイ語で再提示するという行為は、当該番組がハワイ語の再活性化を目指す目的に強く志向していることを示している。物語の報告はもちろん、どのような事柄であれハワイ語で表現可能なのだということも番組を通じて発信されているメッセージであると考えられる。

ハワイは多民族・多文化・多言語な社会であり、そのような社会では、特定の民族、コミュニティに属する人は、その集団と結びついたある種の属性を持っているという、規範的な常識がある。しかし、PNによる語りの終結部のオチに観察されたように、「ハオレ（白人）だけれども」という、カテゴリと属性との不一致が語りのリソースとして用いられ、先住民語のハワイ語は、先住民でない人にも学習機会が開かれているというメッセージが強調されることにもなっていた。まさにこの点が私の関心事であり、ラジオ番組は先住民語を復活させようという試みの一つだが、関わっているスタッフは第2言語話者がほとんどで、さらに主たるホストはハワイ先住民でもないという状況があった。エスノポエティクスの「エスノ」が意味する、ある同一の集団の人たちが共有する、何かを巧みに達成するための方略とは、ハワイ語ラジオ番組に見られるような第2言語話者だったり、そもそも違うコミュニティの出身者が混在しているなかでの「エスノ」は、一体どのような集団のポエティクスなのかを検証することが今後の課題である。

最後に、講義の機会を与えてくださった片岡先生と研究所の皆様、データの文字起こし作業を手伝ってくださった研究協力者の土肥さんに感謝したい。

## 参考文献

- Bauman, R. & Briggs, C. (1990). Poetics and performance as critical perspectives on language and social life. *Annual Review of Anthropology*, 19, 59-88.
- Hiraishi, K. (2019, April 10). Introducing Pōwehi, The world-famous black hole. *HPR*. Retrieved from [www.hawaiipublicradio.org/post/introducing-p-wehi-world-famous-black-hole#stream/0](http://www.hawaiipublicradio.org/post/introducing-p-wehi-world-famous-black-hole#stream/0)
- Huapala ([http://www.huapala.org/Ke/Ke\\_Ao\\_Nani.html](http://www.huapala.org/Ke/Ke_Ao_Nani.html))
- 小山亘. 2018. 社会言語学とディスコーダンスの空間: 葛藤と合意の絡み合いによる現

代世界の編成とプラグマティズムの原理.武黒麻衣子 (編), 相互行為におけるディスコーダンス: 言語人類学からみた不一致・不調和・葛藤 (pp.237-260). ひつじ書房.

Maps of Oahu GIS Homepage (<http://www.honolulugis.org>)

Prior, Matthew. (2015). Introduction: Represented talk across activities and languages. *Text & Talk* 35(6), 695-705.

武黒麻衣子. 2018. メタ語用としてのディスコーダンス: 石垣島の「島と内地」の不一致を巡るコミュニケーション実践. 武黒麻衣子 (編), 相互行為におけるディスコーダンス: 言語人類学からみた不一致・不調和・葛藤 (pp.161-184). ひつじ書房.

Tannen, D. (1989). *Talking voices: Repetition, dialogue, and imagery in conversational discourse*. Cambridge: Cambridge University Press.

Wooffitt, R. (1992). *Telling tales of the unexpected: The organization of factual discourse*. Hertfordshire: Harvester Wheatsheaf.

## 文字化記号一覧

(n.n)	( )内の秒数分だけ音声のない状態
(.)	0.2 秒未満の音声のない状態
[	発話の重なりの開始
]	発話の重なりの終了
(word)	不明瞭な発話
(( ))	注釈
-	言葉が不完全で途切れた状態
:	直前の音の引き伸ばし
?	直前の発話の終了部分の音調の上昇
.	直前の発話の終了部分の音調の下降
,	直前の発話の終了部分の音調の半上昇
↑	直後の発話部分の顕著な音調の上昇
↓	直後の発話部分の顕著な音調の下降
h	呼気音
.h	吸気音
<u>under</u>	発話の強調
< >	周辺よりも遅い発話
> <	周辺よりも速い発話
(h)	笑いながらの発話
\$word\$	笑い声で産出されている発話
° word°	ささやき声で産出されている発話
“ ”	引用

## 略語一覽

Det.Pl	plural determiner
Dir	directional
NZR	nominalizer
Obj	object marker
Pcl	particle
Perf	perfective (completive aspect)
Top	topical marker
we.2.exc	we two exclusive
they.2	they two